

カンボジアに対する省エネ支援事業（第2次ワークショップ）を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、カンボジアにおける省エネ法制度の枠組み整備支援を目的に、2019年度 AJEEP Scheme3 第2次ワークショップ（2020年2月）を首都プノンペンで開催しました。主なテーマは以下の通りです。

- (1) 産官学モデルプロジェクト活動によるエネルギー管理に関する理解促進
- (2) S&L 規則 TWG 最終案に関する責任省幹部及び関係省庁担当官との意見交換

□Feb. 12-14, 2020 Phnom Penh, Cambodia



ITC、ACE との進捗状況確認会議

EG ガイドラインの説明 (ECCJ)

工場省エネ診断結果の発表 (ITC)



Consultation Workshop 開会挨拶

関係省庁からの Workshop 参加者

S&L 規則案に関する意見交換

今回の第2次ワークショップでは、

- ・ Day1 : カンボジア工科大 (ITC) と ASEAN エネルギーセンター (ACE) との S&L・EnMS 整備作業進捗状況確認のための会議
 - ・ Day2 : EnMS 制度整備に向けたモデルプロジェクトによるワークショップ
 - ・ Day3 : S&L 制度整備に向けたコンサルテーションワークショップ
- を実施しました。

ITC、ACE との進捗状況確認会議では、S&L 規則である Draft Sub-Decree の最終化状況、Model Project のタスクの進捗状況について確認と協議が行われ、その検討結果を踏まえて Day2、Day3 のワークショップを進めました。

Day2 のモデルプロジェクトでは、省エネ責任省である鉱物資源エネルギー省 (MME) を始めとした EnMS 整備関係省庁、電力局、モデルプロジェクト協力企業3社、ASEAN 支援国としてマレーシア、ACE、ECCJ など合計約20名が参加しました。ECCJ の EC ガイドライン説明、マレーシアからの定期報告書運用システムの紹介、ITC からの工場省エネ診断結果の報告により、プロジェクトメンバー間でエネルギー管理に関する理解が深まりました。来年度は、定期報告書テンプレート案の作成、EC ガイドライン案の作成に着手することも確認されました。

Day3 の S&L 制度整備に向けた Consultation Workshop では、MME の高官はじめ、S&L 制度整備関係省庁、ACE、ECCJ など合計約 100 名が参加しました。MME からのラベルデザイン、Rating Table、MEPS 値、評価指標 CSPF の採用等についての説明に続いて、ITC から S&L 規則案である Draft Sub-Decree について説明され、活発な意見交換が行われました。ASEAN では基準調和に向けた動きが進展しており、カンボジアでも整備を急ぐ必要性があることがワークショップ出席者間で共有されました。

ワークショップ開会挨拶で MME 高官から、「国内の電化率が 94% に到達しており、今後はサプライサイドだけでなくディマンドサイド、省エネにも力を入れていく」との発言があった通り、カンボジアにおける来年度からの省エネ法・付帯制度整備の活動は、さらなる進展が期待されます。

(注)

AJEEP: ASEAN-Japan Energy Efficiency Partnership Program

TWG: Technical Working Group

ITC: Institute of Technology of Cambodia

EC: Energy Conservation

ACE: ASEAN Centre for Energy

EnMS: Energy Management System

MME: Ministry of Mines and Energy

MEPS: Minimum Energy Performance Standard

CSPF: Cooling Seasonal Performance Factor